

こんなこと
やってるよ!

活動紹介

自然観察指導員長野県連絡会

「自然観察指導員長野県連絡会」は、(財)日本自然保護協会(NACS-J)の「自然観察指導員講習会」を受講して自然観察指導員になった人たちが結成した、民間の任意団体です。県下各地に約130名の会員があり、それぞれ地域に根ざした活動を繰り広げています。連絡会では、県下の指導員どうしの情報交換や交流、資質向上を図るために、NACS-Jとの共催や、連絡会独自の研修会を行っています。

今年度は、県内の「休廃止スキー場」をテーマに、今後増えていくことが予測される休廃止スキー場を観察し、どのように変化していくか、どうあったら地域や自然にとってプラスになるのかを考える試みを行っています。今年度は生物多様性年ということで、日本で国際会議が開かれましたが、スキー場は面積も広いことから、後利用のしかたによっては地域の自然を左右する、大きな鍵を握っていると考えます。

今年度の総会の折には、このテーマを念頭に、環境保全研究所の須賀研究員に長野県の草原についてのお話をいただきました。地域によっては、スキー場がその地本来の良好な草原になっているところもあるからです。これまで北信と東信の2箇所のスキーエリアを調査し、この11月には長野市大岡の聖山パノラマスキー場を見に行く予定

です。

長野県連絡会では、来年度、NACS-Jと共催の「自然観察指導員講習会」を県内で行う方向で、現在検討中です。興味を持たれた方は、長野県連絡会事務局までご連絡下さい。(小川 朱実)



連絡先

自然観察指導員長野県連絡会事務局

長野市戸隠豊岡 9794 小川方

電話/FAX 026-254-2866

E-mail: ruddy-k@dia.janis.or.jp

こんな本みつけた!

読書案内

『新訂 一茶俳句集』

岩波文庫・丸山一彦校注・1990年・414ページ・800円+税

俳句は、私たちの身近にあるあらゆる物事をうたうことができる、世界でもっとも短い詩のかたちです。俳句の中には、季節を表す言葉とともに、様々な生き物や生活や食べ物や人事などが出てきます。俳句を作る人のことを俳人と呼びますが、俳人は今でいう「生物多様性」の恩恵をもっとも受けている人たちといってよいでしょう。

小林一茶は、現在の信濃町柏原出身の俳人で、今から183年前の1827年に亡くなった人です。「^{やせ}瘦蛙まけるな ^{これあり}一茶是に有」という句や、雀や蠅などを詠み込んだ句を記憶している人も多いと思います。庶民的な言葉で小動物などを面白く詠んだ作品が有名ですが、彼の生い立ちや他の様々な作品群をみると、彼がただの素朴な好々爺ではなかったことがわかります。信濃の風土に深く根をもちながら、この人ほど時代や地域や国までも超えて、現代を生きている俳人はいないでしょう。本書は、一茶が生涯に残した約2万句の中から2千句を選び、制作年順に編集した

ものです。一茶の句を通して、多様性に満ちたこの自然と私たちの社会を、改めてのぞいてみてはいかがでしょうか。

(紹介者：ときどき俳人 富樫 均)

